

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- (1) 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校
(2) 一人一人の多様性を認め、個に応じた支援を図り、誰にでも居場所があり、安心して自己実現が図れる学校
(3) 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指し、主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校

各学校で定める目標と育成する資質・能力

【目標】自己の在り方・生き方について、探究活動を通して課題を発見し、適切に解決することができるようになる。そのために、以下の資質・能力を育成する。
【育成する資質・能力】
(1) 自己実現を図り、社会で生き抜くための課題を見出し、解決するために必要な知識・技能を身に付ける。
(2) 課題解決に向けて、他者との協働・連携を図りながら必要な情報を得て、得た情報から自らに必要な解決方法を見出す力を身に付ける。また、それを他者にわかりやすく伝える手法を身に付ける。
(3) 自己の在り方・生き方は自らが構築していくことであると気づき、主体的に考え、自らの能力を社会で活かす姿勢を身に付けさせる。

総合的な探究の時間の学習評価

【信頼される評価方法：結果だけでなく過程を評価できる工夫】
(1) 授業担当者間で評価観点・評価基準の共有を図る。単元開始前、中間、最終に担当者会議を実施する。
(2) 最終結果だけでなく学習過程の評価の工夫を図る。探究計画、中間・最終発表、ワークシート、生徒の振り返りシートを活用する。
(3) 生徒一人一人の良い点や可能性に着目する個人内評価の充実を図る。できること・わかることが増えたかどうかを個々の能力に応じて評価する。
(4) 第三者評価の活用を図る。活動内容の発表・展示時に、保護者・地域社会の人々による評価。

生徒の実態

- ・ひかえめで、素直な生徒が多い
・多様な学習歴を持つ生徒が多く、基礎基本に重点を置いて学び、高校での学び直しを期待している
・与えられた課題だけでなく、自ら課題を見出す力を身につけたい

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・個に応じたきめ細かな指導の実践
・不登校傾向の生徒への支援強化
・教育相談体制の充実
\* SC・SSW・CA・萩かふえの活用
・地域との連携強化
・チーム学校の体制強化
・通級指導の効果的な実施

目指す生徒の姿

- ・自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞き、課題を解決しようとする生徒
・地域・社会の課題に関心を持ち、自己の能力を活かして、社会貢献できる生徒
・他者と協働して、課題解決を図っていく生徒

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

【1年次】「自分って何者」「みんなとつながる」「社会とつながる」
《身に付ける資質・能力》
(1) 自己理解かつ他者理解を深めるための方法を身に付ける。
(2) 自分と他者、自分と社会とのよりよい関係を考え、関係作りを実践する。
(3) 自らの課題として捉え、積極的に活動している。
《具体的な内容》
ア 自己理解スキル 「こんなとき私は」「リフレーミング」「私の歴史と未来」
イ 他者理解スキル 「他人のいいところ探し」「大切にされている自分」
ウ 社会とつながる 「構造的エンカウンター」「ルールの大切さ」
エ 課題解決スキル・話し合いの方法 「KJ法」「ブレインストーミング」

【2年次】「なりたい自分」「なれる自分」
《身に付ける資質・能力》
(1) 働く意義について考え、職業選択に必要な情報を理解する。
(2) 職業に関する情報を調べ、特徴をまとめて発表する。地域の産業について意見を出し合い解決方法を見出す。
(3) 職業選択への意識と積極的な社会貢献への姿勢を持つ。
《具体的な内容》
ア 働く意義について イ 職業調べ(働きたい職業は?) ウ 修学旅行について

【3年次】「社会とつながる」
《身に付ける資質・能力》
(1) 地域社会の課題を調べ、解決策を見出す方法を身に付ける。
(2) 他者の多様な考えをまとめる手法を身に付ける。
(3) 自分の課題としての認識を持ち、探究活動に積極的に取り組む。
《具体的な内容》
ア 地域の伝統と文化について イ 地域の課題について ウ 地域貢献方法について

学習活動、指導方法等

【1年次】
「道徳」教材の「ともに歩む」、学校自作のワークシート、「心理学」の教材を利用する。個別の探究活動と3~4人でのグループワークを併用し、自己理解に努める。また、課題解決に導くための話し合い方法の習得に向けて、KJ法やブレインストーミングの手法を体験する。探究活動の基礎作りと位置づけ、教員は探究の手法について積極的にアドバイスする。
【2年次】
ワークシートやプリント教材を用いて、個別の調べ学習を実施する。課題の調べ方や、わかりやすいまとめ方等の手法を習得する。公民科「公共」、家庭科「家庭基礎」との連携を図りながら進める。地域産業については、周辺の市役所やハローワークとの連携を図り、グループでの活動を主体とする。教員は、探究活動の環境づくりに関わり、生徒の主体的な活動(調べる→まとめる→発表する)を促す。
修学旅行に関しては、修学旅行の目的に沿って課題を設定する。平和学習、旅行先の文化・歴史・生活・自然などテーマを設定して学習する。
社会に生きる人間の在り方、資質・能力を身に付けるために、企業と連携しインターンシップを実施したり、進学する心構えや学力・能力を高めるために専門学校・大学との連携を図り、各種見学会に参加したりする。
【3年次】
生徒がこれからも生活していく地域社会の課題について、生徒自身が課題を見出し、課題解決に向けて調査・検討し、解決策を提案できるよう、グループごとの主体的な活動を促す。教員は、主体的な活動をサポートし、必要な指導・助言を行う。探究するテーマはある程度設定しておき、探究活動に臨みやすい体制を整備する。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- (1) 「総合的な探究の時間」運営委員会(6名)……教務部、各年次代表を中心に6名選出。適宜内容や評価等の改善に努める。
(2) 授業担当者会議…年次ごとに授業担当者が情報共有。単元開始前・中間期・評価前の打ち合わせを実施。
(3) 「総合的な探究の時間」研修会…新任者・初任者へのレクチャーを実施。運営委員会が担当する。
(4) 地域との積極的な連携…地域企業との連携: インターンシップ、企業人講演会、企業見学会
地域行政機関との連携: 市役所、ハローワーク、博物館等